別紙 （参考様式）

令和8年度　体育に関する指導改善計画

三原市　　立　　中之町　　小学校

令和7年度の重点課題

情意面
〇男子
・運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きではない児童が約9%増加し、約9%だった。
・学校独自の意識調査において、各運動をすることに対する否定的な回答が前年度より増加し、約8～23%だった。
〇女子
・男子同様、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きではない児童が増加しており、男子より多い約19%となった。
・学校独自の意識調査において、各運動をすることに対する否定的な回答は前年度より減少していたが、依然としてその割合は高かった。

体力面
・新体力テストの結果では、県平均値・全国平均値を上回る種目が、前年度は男子の1種目のみだったことに対し、令和7年度は男子・女子ともに4種目あった。しかし、前年度の5年生の記録値と比べると、前年度より数値が下回る種目が男子は4種目、女子は1種目あった。

上記の課題を受けて具体的に取り組んだ事項

体育の授業で行う取組内容
〇前年度に引き続き、アクティブチャイルドプログラムを取り入れて体を動かす楽しさを味わわせることで児童の運動に対する意欲向上につなげたり、各単元の指導が始まる前に単元で伸ばしたい力を各学年で確認し、その力に合った運動をアクティブチャイルドプログラム等から取り入れて行ったりした。
〇運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導について、事前に学年間で計画した。声かけなどの手立てを計画・実践することで、意欲向上につなげた。

体育の授業以外で行う取組内容
〇前年度に引き続き、毎週水曜日の「ロング昼休憩」で普段、休憩で外遊びをあまりしない児童が友達と外で体を動かす機会を設定したり、クラス全員や学校全体で遊ぶような内容を計画したりする ことで、体を動かすことは楽しいことだと児童が感じられる取組を行った。
〇毎朝の健康観察時等で「グーパー運動」等行うことで、児童の握力が向上する一助となるようにした。
〇アクティブチャイルドプログラムに関する職員研修を夏季に行い、どのように体育の学習へ取り入れるか考える場を設定した。

令和8年度新体力テストの結果　県平均値（令和7年度）・全国平均値（令和7年度）との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	21.54	15.00	34.21	41.71	38.07	9.72	131.14	22.07	52.00

女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	18.85	16.44	36.59	40.19	33.85	9.92	134.54	12.85	53.17

■ 県平均値かつ全国平均値未満

令和8年度新体力テストの結果　県平均値（令和8年度）・全国平均値（令和7年度）との比較

男子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	21.54	15.00	34.21	41.71	38.07	9.72	131.14	22.07	52.00

女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
第5学年	18.85	16.44	36.59	40.19	33.85	9.92	134.54	12.85	53.17

■ 県平均値かつ全国平均値未満

運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか

男子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
第5学年	80.00	13.33	0.00	6.67

女子	好き	やや好き	やや嫌い	嫌い
第5学年	76.67	16.67	3.33	3.33

学校独自の意識調査

単位（%）		走ること		跳ぶこと		投げること		力を出すこと		体を柔らかく曲げること		素早く動くこと	
		肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的	肯定的	否定的
低学年	男	95.6	4.4	80	20	91.1	8.9	80	20	53.3	46.7	88.9	11.1
（1～3年）	女	82.8	17.2	84.5	15.5	86.2	13.8	75.9	24.1	84.5	15.5	87.9	12.1
高学年	男	87.7	12.3	84.2	15.8	89.5	10.5	87.8	12.3	57.9	42.1	78.9	21.1
（4～6年）	女	71.3	28.8	76.3	23.8	63.8	36.3	78	22	56.3	43.7	73.8	26.2

重点課題

情意面での課題

〇男子
・運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きである児童の割合が2%向上しているが、今年度の重点目標値（95%）に満たず約93%となった。
・学校独自の意識調査において、低学年の「体を柔らかく曲げること」に対する否定的な回答が前年度より約28%増加して46.7%となった。
〇女子
・運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きである児童の割合が12%向上しているが、今年度の重点目標値（95%）に満たず約93%となった。
・学校独自の意識調査において、高学年の「体を柔らかく曲げること」に対する否定的な回答が前年度より約16%増加して43.7%となった。

体力面での課題

・新体力テストの結果では、県平均値・全国平均値を上回る種目が、男子は昨年度とともに4種目（握力・長座・反復・ボール）だったことに対し、女子は昨年度4種目から、2種目（握力・反復）へと減少した。また、昨年度の5年生の記録値と比べると、昨年度より数値が下回る種目が男子は5種目（上体・反復・50m・立幅・ボール）、女子は6種目（上体・反復・シャトル・50m・立幅・ボール）あった。

重点課題に対応した改善する取組内容及び方法

体育の授業で行う取組内容

〇学年に合わせて、アクティブチャイルドプログラムの中から「くもおに」、「横並び正面飛び」、「押しくらまんじゅう」等の運動を取り入れ、楽しく運動したり、全身を動かす運動をしたりすることで運動に対する意欲向上につなげる。
〇運動が苦手な児童や運動に意欲的でない児童への指導について、事前に前学年で取り組んだ内容等を踏まえながら、学年間で計画する。声かけなどの手立てを計画・実践することで、意欲向上につなげる。
〇体育科の領域に合わせたサーキット運動を行うことで、児童が様々な運動に慣れ親しむとともに、多様な体の動かし方を身につけられるようにする。

体育の授業以外で行う取組内容

〇前年度、本校が週に1度行っている「ロング昼休憩」で普段の休憩で外遊びをあまりしない児童が友達と外で体を動かす機会を設定したり、クラス全員や学校全体で遊ぶような内容を計画したりすることで、児童が体を動かすことは楽しいことだと感じられるような取組を考えた。しかし、取り組めていない学級があったため、今年度も同じ取組内容ではあるが、夏に予定している研修において改めて周知したり、取り組めているかどうか確認したりして、取組を徹底していく。
〇基礎体力を高めるため、全校児童でマラソンを行う。

令和9年度の重点目標値

〇「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の質問に対する肯定的な回答をする児童の割合を男女ともに95%以上。
〇体力テスト8種目中、男女ともに4種目が（特に三原市が重点とする50m走において）県平均記録・全国平均記録を上回る。